



# 林業福島

No. **727**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会  
会長 小檜山善継



# 3

2025



監 修 ■ 福島県農林水産部  
表紙の写真 ■ 熟 年 の 技



# 森林・林業の再生に向けて

福島県町村会長

埴町長 宮田 秀利

森林・林業関係者の皆様には、日頃より、町村行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。また、これまで森林の整備、保全等に日夜努力を重ねておられることに対しまして、心から敬意を表するものであります。

さて、県土の約七割を占めている広大な森林は、土砂災害の防止や水源かん養などの公益的機能を有し、県民に様々な恩恵を与えてくれるかけがえのない財産であります。

しかしながら、県内には荒廃が懸念される森林がまだまだ多いことから、造林や間伐等の森林整備は必要でありますので、私どもは引き続き「ふくしま森林再生事業」や「森林環境譲与税」などを活用しながら、森林・林業の再生に取り組んでいかなければならないと考えております。

なお、「ふくしま森林再生事業」をはじめとした各種復興施策については、原子力災害の影響を受けた本県の森林の再生を図る上で重要でありますので、第二期復興・創生期間終了後も事業が完了するまで十分な予算を確保することが不可欠であります。

また、森林の整備等に活用される「森林環境譲与税」については、本年度から森林面積の譲与割合が引上げられ、森林を多く抱える自治体により多く配分されることになりましたが、全国には未整備の森林がまだまだ多くあり、公益的機能の低下による災害等の発生が危惧されておりますので、森林整備が一層進展するよう、配分割合のさらなる拡充が必要であります。

一方、近年、森林が大半を占めている山村地域への移住・定住や二地域居住といった田園回帰の動きが活発化してきております。

特に若者が林業に関心を持つたり、地域づくりに参加したりするなど、多様な関わりを持つ「関係人口」の拡大や、「半林半X」という新しいライフスタイルを目指す移住者も増えてきており、地域の活性化につながるものと期待されておりますので、地域づくりのための活動に対する支援を拡充するよう求めてまいります。

福島県町村会といたしましては、関係団体との連携を強化しながら、本県の森林・林業の再生に向けて、引き続き国に対し積極的に働きかけを行ってまいります。今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 《も く じ》

とびら

森林・林業の再生に向けて

- 福島県町村会長 埴町長 宮田 秀利… 1
- 森林・林業の復興に向けて国へ緊急要望… 2
- 令和6年度林業研究グループ等活動発表会・林業普及指導員全体研修会を開催しました… 3～4
- 令和7年度緑の募金のご協力、よろしくお願いたします… 5～6

- 林業アカデミーふくしま研修日誌⑩… 7
- 普及指導員通信… 8
- 森連だより… 9
- きのこセンターだより… 10
- 木の文化を育む⑦⑧… 11
- 木材市況・ふくしま東西南北… 12
- はなしのひろば・お知らせコーナー… 13

# 森林・林業の復興に向けて 国へ緊急要望

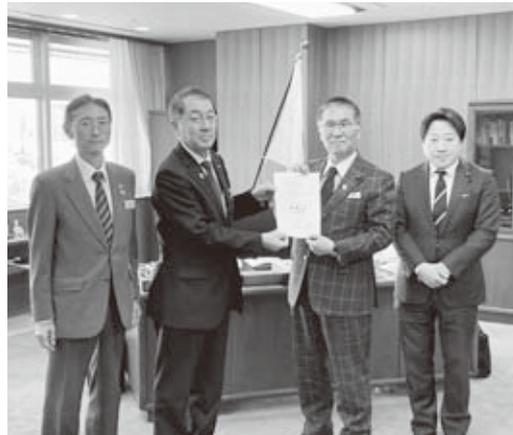
福島県林業会議

県内の森林・林業関係十団体で構成する福島県林業会議は、令和七年二月十日、東日本大震災からの森林・林業の再生に向け、復興庁と林野庁に要望活動を行いました。同会議では、これまでも復興・創生に係る新たな課題について継続して取り組めるよう要望活動を展開してまいりましたが、今回は、特に現在検討が進められている「第二期復興・創生期間」の次期対策について、「ふくしま森林再生事業」を始めとした放射性物質対策及び放射性物質の影響に対応した森林整備等の推進や林業・木材産業の復興に向けた支援など必要な事業の継続とともに、新たな課題への対応を含む事業の拡充、これら事業に必要な予算を確保するよう要望しました。

伊藤忠彦復興大臣、青山豊久林野庁長官ともに、要請をしっかりと受け止め、復興のステージに応じた支援ができるよう、森林整備の拡大に必要なガイドラインづくりや必要な事業予算の確保に努力する旨発言いただきました。



林野庁にて、中央が青山豊久林野庁長官、左が小坂善太郎次長



復興庁にて、右から風間県木材協同組合連合会会長、田子英司県森林組合連合会会長、伊藤忠彦復興大臣、ご同行いただいた坂本竜太郎衆議院議員

## ふくしまの森林・林業の復興に向けた緊急要望項目

- 1 第2期復興・創生期間の次期対策における施策の拡充と予算の確保  
次期対策における必要な事業の継続と新たな課題への対応を含む事業の拡充、これら事業に必要な予算の確保と地方財源措置
- 2 放射性物質対策と森林整備等の推進
  - (1) 「ふくしま森林再生事業」を始めとした各種復興施策に係る予算の確保とともに、帰還困難区域など高線量区域の森林整備への特段の措置
  - (2) 帰還困難区域などの森林整備を進めるためのビジョンの提示と必要な支援
  - (3) 帰還困難区域の森林整備を進める上での林道事業や住民帰還に必要な治山事業のための予算の確保
- 3 林業・木材産業の再生に向けた支援
  - (1) 丸太、製材品の放射性物質濃度調査、木材の安全確保に要する検査、樹皮の処理・活用等、放射性物質対策の拡充支援
  - (2) きのこと原木、おが粉など生産資材の調達を支援する事業の継続
  - (3) きのこと原木林再生を図るための「広葉樹林再生事業」の継続
  - (4) 原木しいたけ露地栽培の生産再開への支援強化
  - (5) 山菜・野生きのこのモニタリングや出荷制限解除に向けた取組の継続

# 令和六年度林業研究グループ等活動発表会・ 林業普及指導員全体研修会を開催しました

福島県森林計画課

令和六年度林業研究グループ等活動発表会

令和七年一月三〇日（木）、令和六年度林業研究グループ等活動発表会を県林業研究センターにおいて開催しました。県内各地の林業研究グループをはじめ林業関係者等約六〇名が参加しました。

この発表会は、県内各地の自主的な実践活動を行っているグループがその取組を発表することにより、各グループの活動の展開に資することを目的に開催しており、今回は六団体から、里山の再生・整備、自然環境保護などに貢献する様々な活動について発表がありました。それぞれ課題を抱えながらも、地域の特徴を生かした地域づくりを目指して日々努力している様子がうかがえ、今後地域を中心となって活動が展開されていくことが期待されます。

六団体とも素晴らしい発表でしたが、審査会の結果、最優秀賞には三森孝浩さん（チーム・ゴールド）、優秀賞には熊田征一さん（明神里山実行会）、特別賞には大橋善博さん

（白河高原薪の会）が選ばれました。

三森さんの発表では、補助金に頼らない森林経営のモデル形成や、高校生の研修受け入れといった次世代の育成を目的とした活動が評価されました。熊田さんの発表では、地域の活性化を目的とした里山の整備活動に加え、震災以降中止していた原木なめこの収穫に向けての取組が評価されました。大橋さんの発表では、健全な森林育成につながる新づくりだけでなく、小学生へ向けた環境教育や薪割体験など、様々な角度から森林について学ぶことができる取組が評価されました。

午後には、福島大学およびテクノアカデミー浜より、大学生による森林自己学習支援事業成果報告が行われました。この事業は福島県民の一人一人が参画する森林づくりを進めるべく、新たな担い手となる大学生を対象に、森林に関する自己学習を推進する取組です。大学生の活動成果を発表・展示することで、学生間で成果を共有するだけでなく、林業研究グループ等との交流により、両

者の今後の活動をより充実させるものとなりました。

また、人材育成アカデミーローズレーン代表の黒田三佳氏から、「幸せな未来を森からデザインしよう」と里山を生かした人材育成と多様な活躍の場づくり」と題して、里山をとおした多岐に渡る活動をご紹介いただき、地域づくりと人材育成がどのように結びつくのか、ご講演いただきました。

各林業研究グループ等の発表課題は、次のとおりです。

●【最優秀賞】未来につながる森林経営（チーム・ゴールド）

三森 孝浩（石川町）  
●【優秀賞】うつくしま百名山（明神山と地域のきずなく里山再生

の取組）

（明神里山実行会）

熊田 征一（いわき市）

●【特別賞】白河高原薪の会  
活動の歩みと今後の課題

（白河高原薪の会）

大橋 善博（西郷村）

●古館の大ケヤキの保存活動の取組について

（古館町内会）

安西 義男（福島市）

●雷神様に導かれて 里山整備と幸せ（里山のアトリエ坂本分校ばんげ木こり部）

菅 敬浩（会津坂下町）

●「南会津町の湿原を守る会」のこれまでの取組

（南会津町の湿原を守る会）

湯田 俊一（南会津町）



大学生による森林自己学習支援事業成果報告



林業研究グループ等活動発表会の受賞者の皆様

令和六年度林業普及指導員全体研修会  
令和七年一月三十一日（金）、令和六年度林業普及指導員全体研修会を県林業研究センターで開催しました。県内各地の林業普及指導員をはじめ林業関係者等約六〇名が参加しました。

この研修会は、地域の林業活動を支え普及活動に携わっている県内の林業普及指導員が、普及の現場で培った経験と知識を共有し、今後の課題解決に向けた議論を深める場としており、今回は各普及地区の代表者七名から、GNSS技術の活用や森林経営管理制度の推進といった普及活動の報告があり、それぞれの発表に対し活発な質疑応答が交わされました。

発表会の審査の結果、最優秀賞には三瓶裕生さん（県中農林事務所）、優秀賞には蓮沼友紀子さん（相双農林事務所）が選ばれました。三瓶さんの発表では、現場の課題に対応した安価で導入しやすい機器の測量制度の検証と、導入促進のためのマニュアル作成といった普及活動が評価され、今後の森林整備の基盤構築に繋がることが期待されました。蓮沼さんの発表では、市町村に向けた松くい虫被害対策に関する基礎知識の普及から現況に合った計画の策定、対策の提案を行い、市町村自ら

が継続して対策できるように普及活動を行った点が評価されました。

研修会の午後には、林業普及指導員同士が専門項目ごとに意見交換を行い、より効果的な普及活動を展開するための情報交換が行われました。また、県が抱える林業の担い手不足の課題についても議論が交わされ、特に新たな技術の導入や人材育成の重要性が再確認されました。参加者たちは、これらの課題に対してどのように取り組むべきかを真剣に考え、今後の方向性を見据えた有益な意見を出し合いました。

各林業普及指導地区からの活動発表課題名は、次のとおりです。

●【最優秀賞】森林整備事業におけるGNSS測量の普及に向けた取組について  
（県中農林事務所 技師 三瓶 裕生）

●【優秀賞】松くい虫被害対策の着実な実施に向けた取組  
（相双農林事務所 副主査 蓮沼友紀子）

●木工教室出前講座による普及啓発の取組について  
（県北農林事務所 副主査 小椋 絵里）

●森林経営管理制度の取組促進について  
（県南農林事務所 副主査 小椋 絵里）

林業課長 高橋 敦宏  
●会津管内における森林経営管理制度の取組について  
（会津農林事務所 主任主査 富樫 誠）

●只見町における持続的な森林整備のための森林資源活用支援について

（南会津農林事務所 副主査 東條 史朋）

●いわき市における森林資源の循環利用に向けた取組について  
（いわき農林事務所 主任主査 二瓶 郁子）



林業普及指導員の活動発表の様子



専門項目ごとの意見交換の様子

# 令和7年度 緑の募金のご協力、よろしくお願いたします

## 緑の募金の実績

令和6年度の緑の募金につきましては、これまでのところ（4月～1月分集計）、下記のとおり4,788万円（前年度実績4,814万円）のご寄付をいただきました。多くの皆様方の善意に厚く御礼申し上げます。

緑の募金は、緑豊かな潤いある美しいふくしまを目指し、緑化の推進、森林の整備、次代を担う青少年の育成、森林ボランティア活動の支援などに活用させていただいており、地球環境の保全、地域の緑化環境の整備、緑化運動への理解醸成等に貢献しています。

令和7年度の「緑の募金」春季募金推進期間は、例年どおり4月1日から5月31日までとなりますが、引き続き緑の募金を活用した幅広い分野における緑化運動を展開してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。

令和7年の国土緑化運動標語  
「希望の芽 緑と一緒に 創る未来」

〒960-8043

福島市中町5-18 福島県林業会館内

(公社)福島県森林・林業・緑化協会

(緑化推進局 緑化推進課)

TEL 024-524-1480 FAX 024-521-3246

## 令和6年度「緑の募金」実績（令和6年4月1日～令和7年1月31日）

(単位：円)

市・地方緑化推進委員会	募金の種類					計
	街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金	
福島市緑化推進委員会	264,809	0	1,622,391	785,613	1,111,115	3,783,928
伊達市緑化推進委員会	0	1,759,502	316,868	288,163	58,543	2,423,076
伊達郡緑化推進委員会	56,328	992,097	232,000	91,481	34,186	1,406,092
二本松市緑化推進委員会	9,189	1,416,600	10,000	230,930	226,117	1,892,836
本宮地域緑化推進委員会	31,457	974,600	395,540	70,652	63,158	1,535,407
国土緑化岩瀬地方推進委員会	97,974	462,300	2,506	66,725	29,971	659,476
田村市緑化推進委員会	1,030	946,000	239,365	241,518	23,100	1,451,013
田村地方緑化推進委員会	0	846,510	50,000	166,249	0	1,062,759
国土緑化石川地方推進委員会	4,020	1,020,950	257,500	169,149	266,725	1,718,344
白河市緑化推進委員会	15,922	1,006,600	509,937	249,700	0	1,782,159
国土緑化西白河地方推進委員会	7,052	1,366,100	383,628	186,749	49,001	1,992,530
国土緑化東白川地方推進委員会	41,084	667,400	185,697	202,399	34,263	1,130,843
国土緑化会津若松市推進委員会	0	3,785,580	507,000	686,445	373,461	5,352,486
両沼地方緑化推進委員会	6,668	1,214,582	55,740	184,555	0	1,461,545
会津耶麻地方緑化推進委員会	805	857,400	117,100	178,478	74,011	1,227,794
喜多方市緑化推進委員会	3,100	1,409,800	440,500	480,676	0	2,334,076
南会津地方緑化推進委員会	5,861	1,273,403	27,530	168,245	10,297	1,485,336
相馬地方緑化推進委員会	4,269	1,060,153	0	418,849	0	1,483,271
双葉地方緑化推進委員会	0	0	0	0	0	0
いわき市緑化推進委員会	21,740	7,891,811	853,993	1,570,947	353,554	10,692,045
小計	571,308	28,951,388	6,207,295	6,437,523	2,707,502	44,875,016
事務局	239,736	60,200	1,545,702	1,133,911	34,183	3,013,732
合計	811,044	29,011,588	7,752,997	7,571,434	2,741,685	47,888,748

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む

## 【緑の募金の活用】

皆様から寄せられました家庭募金や企業募金、職場募金、学校募金などは、県内の各市・地方緑化推進委員会を通して当緑化協会に送金いただき（右頁の表）、このうち約6割の額を各市・地方緑化推進委員会へ交付し、それぞれの地域に応じた緑化事業を行っております。

また、当協会においては、県内一円を対象とした緑化活動事業を行っております。

## 【実施事業】

- 1 森林の整備 ①普及啓発 ②森林の造成・保育 ③環境保全ほか（苗木や作業用具等の購入に要する経費など）
- 2 緑化の推進 ①普及啓発 ②地方植（育）樹祭の開催 ③学校、公共施設等の環境整備 ④緑の少年団活動 ⑤園芸教室等の開催ほか（公共施設等の環境緑化に要する経費、緑の少年団等の活動経費など）

## 【緑の募金の活用事例】

- (1) 小・中・高校生や地域のNPO法人が、花苗の定植や花壇づくりにより学校や公共施設の環境整備を推進することで、地域の環境緑化の推進と緑化意識の高揚が図られています。



小学生による花壇整備



中学生による花壇整備

- (2) 県内各地で森林づくり団体等が、植栽や下刈りなどの森林整備活動を行うことで、自然災害の防止や地球温暖化防止等に貢献しています。



植樹作業



地方植樹祭（会津若松市）植樹作業



歩こう会スタート

- (3) 県内の各市・地方緑化推進委員会が「地方植樹祭」を開催することで、地域の環境緑化の推進と緑化意識の高揚が図られています。

- (4) 今年度は鏡石町で開催した「第36回ふくしま緑の百景歩こう会」の参加者に、緑化苗木を配布することで、緑化の重要性を普及しています。



森林整備作業（植樹の準備中）



地方育樹祭（会津坂下町）育樹作業



苗木配布

- (5) 平成30年に開催された全国植樹祭の理念を引き継ぎ、「未来へつなぐ希望の森林づくり」をコンセプトに今年度はいわき市の錦町須賀地区で「第7回ふくしま植樹祭」を「第50回いわき市植樹祭」と共同で開催し、植樹・育樹活動を行いました。



第7回ふくしま植樹祭（いわき市）集合写真



植樹作業



緑の募金ブース

# 林業アカデミーふくしま研修日誌⑩



研修が始まって十ヶ月が経ち、残り二ヶ月となりました。一月は最後のインターンシップがあり、就職先が明確になってきました。

## ○一月の研修内容

「林内路網」「チェーンソー伐木造材技術」「高性能林業機械運転技術」林業機械等の操作技術における実習を三班に分かれて一日ずつ現場状況に応じた内容で実施しました。

林内路網では、既設の森林作業道において、山側の崩れや雨による轍の浸食で損傷した路面を整備する実習を行いました。

チェーンソー伐木造材技術では、広葉樹の枯損木を伐採する実習を行いました。枯れ木の判別や、伐採時に枝の落下に注意することなどを学びました。

高性能林業機械運転技術では、スイングヤーダを使用した簡易架線による集材実習を行いました。

### 「安全の基礎」

現在の伐倒技術が確立された経緯や、ヒューマンエラー対策としての指差呼称について、ミスを限りなく減らすための手段を学びました。

「就業体験（インターンシップ）」就職を見据えた最後のインターンシップを九日間実施しました。十ヶ月間、アカデミーで基礎を学んできましたが、現場での対応力など、今後の課題も多く見つかりました。就職までの残り二ヶ月間で、できる限りのことをやりきってほしいと思います。

また、インターンシップの受入では県内各地の森林組合や事業体の皆様にお世話になりました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。ご協力、誠にありがとうございました。

「素材生産総合技術」林業における近代から現代までの技術の進歩や、高性能林業機械の登場とともに変化する作業システムについて学びました。

「チェーンソー伐木造材技術」林業研究センター敷地内で、アカマツの枯損木を伐採する実習を行いました。外樹皮がもろくなっている枯損木について、芯の位置を見極めて伐倒することを学びました。

## ○研修生の感想 三瓶 陸さん

一月最後のインターンシップは就職を意識した内容で、緊張感のある貴重な機会となりました。

伐倒作業では安全と効率の両立が求められましたが、普段のペースでは時間がかかりすぎ、無理にスピー

ドを上げると危険が伴うため、自分の技量の未熟さを痛感しました。

また、アカデミーの実習ではスギなどの針葉樹が中心で、多少刃の切れ味が悪くても伐採できました。しかし、今回はサクラやナラといった硬い広葉樹が対象で、皆伐作業のため大量に伐採する必要があり、いつもどおりの目立てでは通用しないと実感しました。

今回のインターンシップを通じて、自分に足りない技術や考え方を再認識し、非常に実りのある研修となりました。残り少ない研修期間を有効に活用し、就職に向けて技術向上に努めていきたいと思えます。

## ○研修生の感想 鈴木貴太さん

研修の終わりが近づく中、最後のインターンシップは緊張感があり、身を引き締めて取り組みました。特に今回は就職先として考えている企業にお世話になったため、アカデミーで学んだことを活かして、実際に仕事をしているつもりで臨みました。

主な業務はフォワーダによる搬出作業、枝払いと造材でした。運材自体は研修で学んだとおり作業できましたが、実際に現場で行われる作業スピードについていくのが大変で、未熟さを痛感しました。

また、造材では目立ての良し悪しが作業効率に大きく影響することを実感しました。切れ味の悪い刃では負担が増え、作業の質も低下します。しっかりと目立てを行うことでス



スイングヤーダによる集材



枯損木の伐採

ムーズに進められ、その重要性を身をもって感じました。残り少ない研修期間を有効に活用し、就職に向けて技術向上に努めていきたいです。

## 双葉地方における森林整備の推進

福島県相双農林事務所 富岡林業指導所  
林業普及指導員 細澤 めぐみ

### 1. はじめに

富岡林業指導所は、双葉郡8町村の森林・林業行政を担当しています。原子力発電所が立地する双葉地方は、震災から14年が経過した今も、原発事故の影響が県内で最も残る地域と言えるでしょう。段階的な避難指示の解除や、特定復興再生拠点区域の設定により、居住環境の整備と住民の帰還が少しずつ進んでいますが、未だ多くの課題が残されています。林業生産活動においても、住民の避難等に伴い、依然として停滞した状況です。そこで、管内で実施している森林の機能維持・向上に向けた森林整備の取組をご紹介します。

### 2. 現在の状況

福島県では、市町村等の公的機関が事業主体となり、森林の再生を図るための「ふくしま森林再生事業」を実施しています。管内では、平成26年度着手の川内村を筆頭に、今年度から開始した大熊町を含め、7町村で当事業が進められています。この事業は、間伐などの森林整備と同時に、放射性物質の拡散防止対策を実施することが特徴であり、拡散防止対策として、森林内への丸太筋工（写真1）の設置と木材運搬時の放射線量測定に取り組み、森林整備・森林の再生に努めています。

### 3. 取組内容

ふくしま森林再生事業は、町村が主体となって進められますが、林業を専門とする役場職員が不足しているため、様々な支援を行ってきました。年度初めには担当者会議を開催し、留意事項の説明や意見交換を実施しています。また、管内は空間放射線量が比較的高い地域であるため、必要に応じて木材の樹皮に含まれる放射性物質の濃度測定に関する助言や、拡散防止対策の必要性を説明しています。さらに、事業を効率的かつ効果的に進めるため、町村担当者及び事業受注者間での打合せを行いながら、進捗管理にも力を入れるよう心がけています。手入れ不足の森林が広大な面積を占めていますが、どこの森林を優先的に整備するかといった課題についても、地域の状況を踏まえて検討してきました。とある役場担当者からは、震災後手つかずだった山がきれいになった、との話を伺いました。

### 4. 今後の取組について

双葉郡の森林整備は、まだ復興途上です。帰還困難区域が大部分を占める町村も存在するため、森林整備面積は震災前の水準には到達できていませんが、ふくしま森林再生事業の実施により、森林整備面積は回復傾向にあります。今後も管内町村と連携して、森林の再生と森林整備の推進に向けて、着実に取り組んでいきたいと思えます。



写真1 丸太筋工



写真2 打合せの様子

森連だより

## 令和六年度森林組合 監事研修会・ 森林組合長会議を開催



### 「森林組合監事研修会開催」

当会は、去る一月二二日に郡山市の林業アカデミーふくしま研修施設「大講義室」において県内十二組合から二七名の監事に参集していただき、森林組合監事研修会を開催いたしました。組織運営が法令や定款に則って行われているか、または不正や不適切な行動がないか等の監事として果たすべき役割を認識していただき監査技術の提供を行うことが目的となっております。

研修内容としては項目を四つに分け、講義を行っていただきました。  
1 「福島県の森林・林業の現状について」

講師 当会

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の影響とその復興・創生について説明。

2 「森林組合に対する指導状況について」

講師 福島県森林計画課



県内森林組合の経営状況や常例検査の結果に基づいた主な指摘事項等について説明。

3 「経営指標の見方について」

講師 農林中央金庫福島支店

組合の経営状態を把握し、今後の経営方針を導くための経営指標の見方について説明。

4 「森林組合指導監査について」

講師 当会

会員に対する指導教育事業の一環として実施する連合会監査の主に指摘・指導事項について、事例を基に、発生要因と対応策を説明。

監事の皆様には事業に関する専門的知識はもちろんのこと、多岐にわたった技能も求められます。今後も、当会として引き続き監事の方々への支援を行ってまいりたいと考えております。

### 「森林組合長会議開催」

一月二九日、郡山市のビッグパレットふくしまを会場に令和六年度第二回森林組合長会議を開催しました。森林組合長会議は県内森林組合長を参集し、県の森林林業総室との林業施策に関する意見交換、森林組合系統内での意見交換及び情報共有を目的とし、より良い系統運営が実現されるよう開催しております。

午前中は県森林林業総室をお招きし、林業施策の動向や県内情勢について情報提供が行われました。その後、森林組合長との意見交換を行いました。各地域の実情や現場での悩み、林業アカデミーふくしまへの期待など多岐にわたる意見交換が図られ、今後更なる林業施策の充実が図られました。



午後は森林組合長のみで議題に則った意見交換及び検討を行い、今後の森林組合系統の事業運営にプラスとなる組合長会議となりました。人材育成、長期的かつ計画的な森林整備の実施、新たな法整備への対応など林業界における課題は山積しています。しかしながら、戦後の長い保育期間から利用期を迎えた現在において、今後の動向は決してマイナスイメージばかりではありません。適切な森林整備と今後の保育作業を確実に、持続的な林業経営が成り立つよう森林組合系統として取り組んで参りますので、皆様のご指導・ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。

団体のページ

きのこセンターだより

令和六年度福島県  
きのこセミナーを開催

公益社団法人  
福島県森林・林業・緑化協会  
福島県きのこ振興協議会

のポイント」と題し、菌床シイタケ品種の中で、北研推奨の県内主力普及品種である「607号」、「705号」の紹介と栽培ポイントの詳細をご講演いただきました。

続いて、株式会社キノックスの嶋原隆食用菌研究所所長様より、「ナメコ栽培の現状と課題」と題し、空調用ナメコ品種の特性、栽培時の注意事項等についてご講演をいただきました。

講演終了後には、株式会社キノックス、北研株式会社、森産業株式会社、OSFの種菌メーカー様より各社の推奨品種紹介と栽培者へのアドバイスをいただきました。

今回のきのこセミナーは、東北寒冷地での大規模原木シイタケ栽培者、工夫で規模拡大を図る菌床シイタケ栽培者、優良きのこ品種を販売する種菌メーカー二社、当協会の振興センターの紹介と今後の業務内容等、全五講演を実施し、参加者からは非常に有意義であったとの声が多く寄せられました。

なお、当日のアンケートからも同セミナーへの期待は大きく、県内栽培者の減少を止め、県きのこ産業普及のためにも、きのこに関する最新情報や技術を共有する場を提供していく予定です。

令和七年一月二八日（火）、福島県農業総合センターにおいて、「令和六年度福島県きのこセミナー」が公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会主催、福島県きのこ振興協議会共催で開催されました。同きのこセミナーは、県内のきのこ栽培者、関係団体及び指導機関を対象に、きのこに関する栽培技術及び最新技術を提供して、きのこ産業の原発事故からの早期復興を支援することを目的としており、きのこ栽培者及び関係者を含めた約七〇名が参加しました。

本セミナーは、初めに福島県農林水産部林業振興課主幹兼副課長の佐藤淳様より来賓挨拶を頂戴した後で、五つの講演を行いました。

一つめの講演は、有限会社越戸きこの園の越戸翔様による講演で、「大規模菌床シイタケ栽培の経営と課題」との演題でした。原木シイタケ栽培から菌床シイタケ栽培への転換

と規模拡大の経緯、経営の安定化を目的とした経費削減策としての廃菌床を利用したバイオマス発電及び自社での原木からのオガコ製造システム工場の導入状況、複数メーカー種菌を利用する栽培のポイントや販売方法、今後の課題等について講演をいただきました。

次に、株式会社岩城町農園の前川善隆様より、「秋田発！原木シイタケ栽培のススメ」と題してご講演いただきました。全国的なきのこ用原木の不足、重労働、製造経費の高騰等で生産が低迷している原木シイタケ栽培について、収益の上がる経営を目指した独自の営農型太陽光発電導入原木栽培法、乾燥シイタケを利用するブランド化を目指した加工品開発及び販売方法等についてご説明をいただきました。

三講演目は、株式会社北研の後藤史和食用菌類研究所副所長様より、「福島県に適した品種の紹介と栽培



来賓挨拶



講演の様子

木の文化を育む<sup>⑦②</sup>

オトナの木工体験 ～心と脳をリフレッシュ～  
(たまき木工所)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

私たちは日々の生活の中で常に何かしらのストレスに晒されています。仕事や育児、介護に追われ、スマートフォンを片手に過ごす日々は情報過多となり、心や脳が疲弊しがちな状況です。心と脳が疲れた時「無心」になれる時間をつくることはストレスを軽減するだけでなく、創造性を高め、自分自身と向き合う貴重な機会となります。

木の文化を育む<sup>⑦②</sup>では、令和六年発行『林業福島』三月号掲載、たまき木工所（石川郡）代表 玉木陽祐さんの新たな活動に注目しました。

○人々の暮らしや地域を変える

玉木さんは「木工は目的ではなく手段。木工をとおして人々の暮らしや地域を変えていきたい」と、かねてから人と地域の心地よい暮らしを実現すべく積極的に地域のイベントに参加し、家具・クラフトを製造・販売しています。大学で林業を学び、農林水産省の林野庁職員とし

て勤務した経験や森に対する造詣を活かし「木工を媒体として森や文化、福島県について伝えていきたい」という想いで、県内外の木工活動に携わるほか、一般市民を対象とした木工ワークショップを開催するなど、老若男女がモノづくりの楽しさを共有できる機会を提供しています。

○地域づくりとモノづくり

東日本大震災後、福島の実地を担ってゆきたいという想いを胸に出身地の石川町へUターンしてきた玉木さんは、Uターンした八年前に感じていた想いを少しずつ実現し、地域のコミュニティプロジェクトの一助となる活動もしています。第一弾はコミュニティスペースの軒先にあらゆる人が憩うことができるベンチ制作です。地元の高校生に協力を得たベンチ制作は、高校生にとってもモノづくりを体験するよい機会となりました。

○おがくずの有効活用

玉木さんは、木材を加工する際に出る「おがくず」を母校でもある地元の高校へ提供しています。高校の弓道部では、この「おがくず」を弓道の的を立てる「安土」に使用しています。安土は年に一度崩して固め直す際に、おがくずを混ぜ込むことでちょうど良い固さに調整することができそうです。

○『FOOD MEETS CRAFT』

玉木さんは「時間も場所も無い自分に、今更ものづくりだなんて無理…そんな思いを抱いている方のために、二〇二五年は一緒に手を動かす時間を過ごしてみたい」と、木製のフレームに紙の紐で座面を編む、ペーパーコードスツール制作のワークショップ『FOOD MEETS CRAFT』を開催しています。地元の美味しい食事を添えて開催する『FOOD MEETS CRAFT』は、少し贅沢なおトナの木工体験の場です。ワークショップ参加者からは「自分に向き合う贅沢な時間になった」「できないと思っていたことがまた一つできるようになった」「大人にも木工の時間って必要だね！」と好評を得ています。制作中は無心となり、疲れた心と脳をリフレッシュする貴重な時間となりました。

○森のバトンリレー

「一本の芽生えが何十年もの月日を経て育ち、誰かから誰かへ」あげ

る『もらう』を繰り返すのが木のモノづくりです」と玉木さん。モノづくりを森から始まったバトンリレーに例え、樹木を丸太にするきこりの方から丸太を板に加工する製材屋さんへ、そのアンカーを務めるのは、木工職人である自分ではなく、自分もまたお客様へとバトンを渡す走者の一人すぎないと。玉木さんは、ここまでバトンが渡ってきたことに感謝を込めて広葉樹のペンダントライト展示販売会を開催します。ペンダントライトの原料となる木材は、その多くが無償で頂いたものや格安で譲って頂いたもので、節や虫食い、変色がある「欠点材」ですが、その表情を生かし素敵な作品に仕上げられています。

○まとめ

会期中は木工旋盤の実演やおトナの木工体験『ペーパーコードスツール』も開催予定です。貴方も心と脳をリフレッシュしませんか？



@TAMAKIMOKKOJO

## 県森連いわき共販における木材市況（2月分）

令和7年3月1日  
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

樹種	素材				摘要
	長級 (m)	径級 (cm)	高値	低値	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10-13	14.0	13.5	
		24上	14.7	11.4	
	3.65	16上			
		24上	12.1	11.5	
	3.00	9下	10.2	8.0	
		10-13	10.5	10.3	
		14-16	13.2	12.5	
		18-20	18.5	16.5	
	6.00	22上	18.3	15.0	
16-20		15.3	15.0		
2.00	16上	7.5	6.0		
ヒノキ	4.00	10-13	9.0	8.8	
		14-16	17.1	16.5	
		18-20	19.8	18.3	
		22上	20.2	18.1	
3.00	16-20	18.8	16.5		
アカマツ	4.80	18-22			
	4.00	18-22	12.0	11.5	
		24上	12.0	11.5	
	3.00	16-22	12.0	11.5	
		24上	12.0	11.5	

樹種	素材				摘要
	長級 (m)	径級 (cm)	高値	低値	
カラマツ	4.00	12下			
		13-14			
		16上			
クリ	4.00	16上			
	3.00	16上			
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	3月の共販日
販売量は5,548㎡（前年同月比168%）でした。市況は、好調だったスギ3m柱材、中目材、4m中目材等、値下げに転じました。荷動きが悪く不落物件も出ております。年度末の駆け込み需要等に期待したいですが、先行き、この状況が続くものと思われます。	7日(金) 17日(月) 27日(木)

行事とお知らせ

県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。

福島県森林組合連合会 木材市況

それぞれの時代が求め生まれた農耕民族の『我田引水』、昭和時代に福島県元知事が政治的に発信した『我山引道』は、住む人少ない山深い故郷にも道を開く必要性を説いたものです。

平成の初期、飯館村内の林道市況古今明線延長三・五キロが、林道としては初めて道路改良、舗装され、さらに「これからの林道は森林に人々が親しむ空間もなければならぬ」との国の粋な計らいから、珍しく歩道が約二キロ設置されました。

村は、この林道を中心に村民の森『あいの沢』と指定し、森林に親しむ村民の憩いと交流を進める宿泊施設等を整備、平成十六年から歩道沿いに、愛をテーマに詠んだ俳句を全国公募、俳人の黛まどかさんが選り、飯館産みかげ石に刻んだ『愛の句碑』二五〇句が赤松林に点在しています。

歩道が無くなった所から奥に進むと、スギ林やナラ林が広がり、我が森林組合が施業した『ふくしま森林再生事業』により、作業道と間伐、放射性物質対策が施された誠に美しい森林群を見ることが出来ます。

林道は、人々に森林に親しむ空間をつくるとともに、森林を植える育



### 森林が求める『我山引道』

飯館村森林組合  
代表理事組合長 佐藤長平

て、伐採材の搬出までの持続可能な循環サイクルに必要な不可欠な社会資本であり、森林が求める『我山引道』は、私たちの喫緊の課題です。



## 表紙の写真



### 「熟年の技」

第21回ふくしま森林・林業写真コンクール  
優秀賞(県森林・林業・緑化協会賞)  
受賞者 広野資郎さん(南会津町)  
撮影場所: 下郷町  
撮影スポット: 熟年の技を見つめる若い娘さんが印象的だった。

発行人  
飯沼隆

陽光社印刷株式会社  
(定価 一〇〇円)

編集

福島県内四森林管理署  
福島県森林・林業・緑化協会  
福島県森林組合連合会  
福島県木材協同組合連合会  
福島県農林種苗農業協同組合  
ふくしま緑の森づくり公社  
森林研究整備機構福島水源林整備事務所  
福島県森林・林業・緑化協会  
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

## はなしの 誘う

最近、数々の記事で、震災と原発事故の記憶を未来へ繋げようとする、たくさんの方の思いに出会った。県外の三組の学生アーティストは「浪江学生デジタルアート道場二〇二四」の作品展覧会を浪江町で開いた。大堀相馬焼の青ひびに着目した映像作品も公開した。また、富岡町には、東日本大震災の記憶を継承するため「時の海―東北」美術館(仮称)の建築が計画されている。生と死や命の輝きを表現する巨大アートと海を眺めながら、三・一一に思いをはせる場所になりたいという。

さらに、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議は、新年度から震災語り部を多言化する方向で検討をしているという。それぞれの人たちが、震災の記憶を様々な形―アートで、言語で、演劇で、音楽などで表現し、広がりをもせてきた。そのテーマは、生と死が絡み合っていてどれも深く重い、その思い達のうわ澄みは、とてもきれいだと思えるのである。さて、神戸では、震災当時から約十一ヶ月後に「神戸ルミナリエ」が始まった。今年で三〇回目を迎えたが、今でも荘厳な光の芸術は、神戸の人々に感動と希望、勇気をもたらしている。

我がふる里ふくしまは、十四年目の三・一一。この三・一一を越えようと、ふくしまには淡い春がくる。その淡い春は、ふと誰かに手渡ししたくなるような、温かな光をつれくる。荘厳な光も、温かな光も、これから巡ってくる季節へと、今は亡き人々をも一緒に誘って(誘う)くれるだろう。

さあ、明日へ

一四二話(都)

## お知らせコーナー

### ○連絡先一覧

市町村名	事務所名	住所・連絡先
福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡・安達郡の町村	県北農林事務所(森林林業部)	福島市杉妻町2-16 (福島県庁北庁舎5階) 024-521-2632
郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡・石川郡・田村郡の町村	県中農林事務所(森林林業部)	郡山市麓山一丁目1-1 024-935-1367
白河市、西白河郡・東白川郡の町村	県南農林事務所(森林林業部)	棚倉町大字関口字上志宝50-1 0247-33-2123
会津若松市、喜多方市、耶麻郡・大沼郡・河沼郡の町村	会津農林事務所(森林林業部)	喜多方市松山町鳥見山字下天神6-3 0241-24-5734
南会津郡の町村	南会津農林事務所(森林林業部)	南会津町田島字根小屋甲4277-1 0241-62-5375
相馬市、南相馬市、相馬郡の町村	相双農林事務所(森林林業部)	南相馬市原町区錦町一丁目30 0244-26-4305
双葉郡の町村	富岡林業指導所	富岡町小浜553-2 0240-23-6084
いわき市	いわき農林事務所(森林林業部)	いわき市平字梅本15 0246-24-6193

### ○野生山菜等の採取及び出荷・販売

今年も山菜の季節となりました。国から出荷を制限されている市町村から採取された野生山菜等は出荷・販売、飲食店や宿泊施設などでの提供、無償譲渡、フリマアプリ等での販売を行うことができませんのでご注意ください。なお、野生山菜等の出荷制限については福島県林業振興課のホームページで最新の情報をご確認いただくか、県農林事務所にお問い合わせください。検索ワードは「福島県 山菜 出荷制限」です。

また、出荷が制限されていない市町村で採取された野生山菜等の出荷を希望する場合は、出荷前にモニタリング検査を行う必要がありますので、県農林事務所までご相談ください。安全な野生山菜等の流通を図るため、皆様のご協力をお願いします。

# 備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



## 1 火災

山火事で受けた損害



## 2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



## 3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



## 4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



## 5 干害

乾燥による枯死などの損害



## 6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



## 7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



## 8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たまちい

◆福島県森林組合連合会  
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

イワフジのGPシリーズ  
グラップルプロセッサ

# GP-35B

IWAFUJI  
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-CANコントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



( 仙台支店 ) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6  
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699  
( 本社・工場 ) 岩手県奥州市水沢字校屋敷西5-1  
( 支店 ) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



# 東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245  
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



## 人と共に 緑と共に

*For Professional*



BCZ275GW-DC  
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

*For Professional*



GZ3950EZ  
排気量 39.1cc

GZ4350EZ  
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

### (有) うねめ 林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1